

もの。給与水準の高いもの。人を大事に
してくれて争議など余り起こさんよう
なものということだ。

ナショナルさんが借明に来たとき、そ
ういった話をしました。これは、給与水
準も高く、公害も出さない。人をよく雇
う、しかも関連産業、つまりテレビの箱
をつくる木工産業や車輻関係の下請を発
注している。それから人を大事にしてく
れる。こういう工場が欲しいのだと話し

ているところだ。

最近では、興国紡績なども、雇用給
与、公害の点もよく、関連産業の点で
も、地元の興国人絹のものを原料とし、
製品は荒尾の第一製網の漁網製造用に出
すという。いわゆる原料を使い製品を下
ろすというところで非常に地元に関連が深
いものとなっています。こういった企業
を誘致したいと思っています。
たしかに地元資源があって、その資

むつかしい、農産物の流通

土屋 後藤さんの農産物の流通研究機関
設置の提案、これは非常に良いと思うの
ですが、

後藤 大分県の例ですが、最近、流通面
の近代化、合理化を進めるために、県内
の卸売市場を整理統合する五カ年計画が
決定されたといわれています。そういっ
た手取り早い方法からはじめていただ
きたいと思います。

知事 本県では、先年魚市場について全
国調査をやらせてもらったのですが、まだ
具体的な施策にはなっておりません。資
料を集めている段階です。

土屋 県の経済連あたりでやったらどう

でしょうか。

後藤 これも大分県の例ですが、経済連
が主体となって流通センターというのを
建設しています。これは、中央市場を通
す一割近い手数料をとられる。一割と
いっても売上商に対する一割であって、
仮に生産者、出荷者の純利益という立場
から考えると五割にもなりましようし、
七、八割あるいは十割以上になるかも知
れません。こうしたムダな経費をなくす
ために、直接小売業者、仲買業者と取引
さしよという趣旨でやっているように
です。

源をつかってくれる工場ということで随
分やっていますけれどなかなか資源立地
工場というのが育たないようです。
しかし、これは皆さんのご提案でもあ
るし、まだまだ創意と工夫のやり方次第
では、こうした資源立地型工場というの
が育つ余地があると思っております。

グループ農業は早すぎるか

佐藤 現在の農業には根本的な改革が必
要だと思われまます。そして、その改革の
必要性は分かっていても、それをやる気力
と自信がないから現状のままで足踏みし
ているのが、今の農民の姿ではないかと
思います。

それで、強い県の力でもって、これだ
けやればこれだけ成果があがるというよ
うなモデルを作っていたらいいと思っ
ます。

そこで、今のままの流通機構では、濃
縮牛乳などほとんど外国から入ってくる
状態になると、いまよりもっと悪い条件
になるのではないかと思います。そうい
うとき、果して今の生活を確保できるか
という非常に疑問を持っています。さ
し当り、阿蘇に入れば、苦勞するかも知
れませんが、将来の見通しとして何かや
れるのではないかと希望を持ってい
ます。

知事 ありがたいご意見です。そういう
考えで具体的に阿蘇へとびこむ人が出る
ことを待っているのですよ。行政という
ものは、事実があって、それを普及して
いくというのが役割なのです。これは
果樹にしろ養蚕にしろ同じことです。た
だ、現実的には草地畜産は非常にきびし
いですね。

土屋 阿蘇の場合、土地は簡単に入手で
きますか。

知事 いや、これは入会権の整理問題な
どがあります。そこで、国や県で入会権
を整理して、土地を買い、そういう希望
者が出たときに売り渡す、丁度、開拓農
地と同じようなやり方をしないと阿蘇の
大規模畜産はできないでしょう。

県ではいまだとん買い上げていま

知事 農業でも、やはりうまく行ってい
る所と、うまく行かん所とある。前崎さ
んのところなどは非常にうまく行ってい
るのではないですか。

前崎 やはり、農業経営というのは、商
店経営も同じだと思えますけれど、現段
階では、どうしても個人経営で行くべき
だと考えます。そして、グループ農業と
いいますか、例えば金を借りて事業をす
る場合、お互いに連帯保証人になりなが
ら、誰か脱落しそうになると皆がそれを
引き上げて行く。そういった範囲の、い
わば精神的協業とでもいいでしょうか、
事業を全部一緒にしてしまっ、それ



同店経営は商店経営と同じです……、前崎さん

を、ソロバンづくで全部分けてしまおうと
いうような協業のやり方は、農業に関し
ては、一寸まだ早すぎるか、あるいは本
質的に農業はそういうものではないので
はないかと、そんなふうに考えていま
す。

知事 金剛干拓で、長野県から引越し
てきた方が、熊本、信州、熊本農協とい

す。それから、話は変わりますが県でも
農業改良普及所に経営の専門家をおいて
おりますが、大事でありながら不足の状
態です。農家から有難がられるような助
言を充分できるように心がけてはいます
が……。

土屋 熊本の信州、熊本農協とい
トのような経営の専門家を育てなければ
なりません。

土屋 熊本県は結局は農業県なんです
ね。ところが、恵まれた、立地条件のよ
い土地を持っている方は非常に恵まれた
生活をしています。その反面、球磨郡、
人吉あたりの中山間地帯では、僅かな耕
作面積にしがみついて、やっと生活して
いるありさまです。

こゝでは、耕作面積は全体の一〇%、
残りは全て山林原野です。その山林原野
の五五％は公有林、四五％は民有林とな
っています。民有林のなかで農家が持
っているのは一六％しかありません。そ
こで、公有林のなかで肥沃地、あるいは
傾斜度の緩いところを解放していただ
き、経済効率の高い作目、例えば、茶、
栗、あるいは和牛の放牧などに切り換え
ていくといったようなことができないも
のでしょうか。

って、共産部落といわれる位徹底した協
業をやっていたのが、今ではすっかり解
体して個別農業に変わってしまってい
る。なかなかむつかしいもののように
思われます。

前崎 たゞ儲かりさえするならばいいの
だと考えるなら、むしろ農業より他の産
業に転向した方がいいのではないかと考
えます。

もちろん、企業ですから儲からなけれ
ばなりませんけれども。たゞ儲かるだけ
でいいという考えでは農業はやれないと
思うのです。

阿蘇大型草地畜産への夢

知事 前崎さんのご意見で水田酪農が非
常にうまく行っているだろうと思ってい
ました。また、事実、朝日新聞の表彰を
うけたりしておられ、儲かるだけが農業
じゃないと言われるけれども相当儲かっ
ておられるのじゃないかと思えます。た
だ、草地酪農では、まだ、そう儲かった
というのがないのじゃないかと思ってい
ます。水田で飼料を裏作でやるとられる
方がまだ安定しているのではないでしょ
うか。

相当、国から大規模牧野改良で補助も
出、草地畜産をはじめ、もう、かれこ
れ三千ヘクタールほどは改良牧野にして
おりますけれど。これを経営的に成立た
せるためにどうするかということは、実
は非常に頭が痛いわけです。

草地畜産をやって、本当に儲けてみせ
たという人がいると、ぞくぞく平地か
ら阿蘇へ上って行って畜産をやらうとい
う希望者が出やしないかと思えます。す
けれど、あなたの提案で、山へ上って行っ
てやるうかという気迫がみちみちている
ので読んで非常に心強い気がしたのです
が。

前崎 先年、阿蘇の農業改良普及所の緒
方さんが、デンマークへ行ってデンマー
クの酪農の実体をいろんな形で紹介され
たのを読んでみまして、粗収入で、現
在、デンマークの中農の中くらいのとこ
ろに僕らの所得があるように思います。
但し、現段階というのが、デンマークの
場合、原乳の乳価が二十七円、僕らの場
合が四十八円、これだけの差があつて
均等なわけです。これに米もプラスされ
ます。米価は高すぎるのではないかと
言われるほどですが、こうした状況でデ
ンマークの中農の中と一緒なのですか
ら。